# 大切にしていること――地域との信頼構築

地域の子どもたちを招いたクリスマス会（上）と、高齢者の方々や子どもたちとともに行った七夕の短冊つるし（下）。日々の学びが、地域への貢献にいつかつながることを学生たちは再認識します。

## 医療福祉に関する情報の「発信地」に

2008（平成20）年の開校時、本校は、医療福祉関連の情報を地域社会へと発信していく場所、すなわち「情報の発信基地」になりたいと考えました。

そのため本校は、今日の社会において医療福祉のあるべき姿とは何か、どのような未来を見据え、そこへどう向かえばいいのかという問いを、自らに投げかけると同時に、地域とともにその答えを探す姿勢を保ち続けたいと思っています。

## 学校もひとつの現場として

社会に開かれた場所であろうとすることは、学生たちのためでもあります。本校は、教育の場であるとともに、ひとつの現場でありたいと考えています。そのことで、社会における医療福祉のあり方を学生たちが在学中から意識し、その変化をもリアルタイムで捉えることができると考えているからです。

## 地域の健康を支える

学園祭では、演習授業のなかで使用している測定機器を用いて、地域の皆様の健康診断を行っています。血圧、部位別筋肉量、骨格筋量などを学生たちが測定し、本校が発行している「マイカルテ」に数値を書き込みます。血圧が少し高いようですね。運動不足ですか？　短い距離でいいので歩いてみるといいかもしれません。医療に踏み込んだ言及はできないものの、こうしたやり取りを通して、学生たちは、地域の方々の健康をわずかながら支えていることへの責任感を育んでいます。

## 実践の場を多く持つこと

学科ごとに、地域の方々とのつながりを作る取り組みも展開されています。例えば介護福祉学科では、地域の高齢者を招待するかたちでお花見会やクリスマス会を実施しています。また、介護入浴の実演・実践や、車椅子体験の機会を提供し、学生たちがサポートを行います。介護福祉の専門的な知識・技術を持たないまま、家族で認知症を含む高齢者介護を行っている家庭が増えている今日、この取り組みは、実践的に役立つものとして喜ばれているようです。

一方、リトミック保育学科では、地域に住む子どもたちとその保護者を招いて、集団保育を体験する「子どもハーベストルーム」を実施しています。学生たちに、日常的に子どもたちと接する機会を提供するとともに、保護者の方々に対して本校発の安心を届けることができればと考えて行っているものです。

医療福祉はどうあるべきか。どう変わっていくべきかを、学内だけでなく、地域・社会を見つめながら考えていくことが、いつか、地域にとって「ハーベストがあって良かった」と思っていただくことのできる学校になる道程なのだと考えています。